

2022年3月期 第3四半期 決算説明資料

ジオマテック株式会社
create coating solutions

2022年 2月8日

第3四半期 連結業績

単位：百万円	2021.12	2020.12	前年同期比	
	(3Q-FY22)	(3Q-FY21)	増減	増減率
売上高	4,570	4,553	17	0.4%
営業利益	△ 12	△ 158	146	-
(営業利益率)	△ 0.3%	△ 3.5%	-	-
経常利益	22	△ 147	169	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△ 33	△ 839	806	-
1株あたり 四半期純利益 (円)	△ 4.26	△ 106.17	101.92	-
加工高	3,871	3,804	67	1.8%

※加工高とは、売上高から基板材料費と外注加工費を差し引いた、成膜分の売上（付加価値収入）のことです。
尚、加工高は、当社の管理数値として使用しているもので会計数字とは必ずしも一致しません。

財務概要

単位：百万円	2021.12	2021.3	増減
流動資産	15,836	11,710	4,126
現金・預金	6,263	6,127	136
受取手形・売掛金	6,901	4,139	2,762
たな卸資産	1,201	1,326	△ 125
その他	1,470	117	1,353
固定資産	4,785	4,202	583
有形固定資産	2,683	1,831	852
無形固定資産	65	24	41
投資その他	2,036	2,346	△ 310
合計	20,621	15,913	4,708

単位：百万円	2021.12	2021.3	増減
負債	10,216	5,520	4,696
支払手形・買掛金	6,560	2,771	3,789
借入金等	2,327	1,791	536
その他	1,328	956	372
純資産	10,405	10,392	13
株主資本	10,080	10,114	△ 34
その他の包括利益累計額	325	278	47
合計	20,621	15,913	4,708

自己資本比率	50.5%	65.3%	△14.8pt
1株あたり純資産(円)	1,315.45	1,313.86	1.60

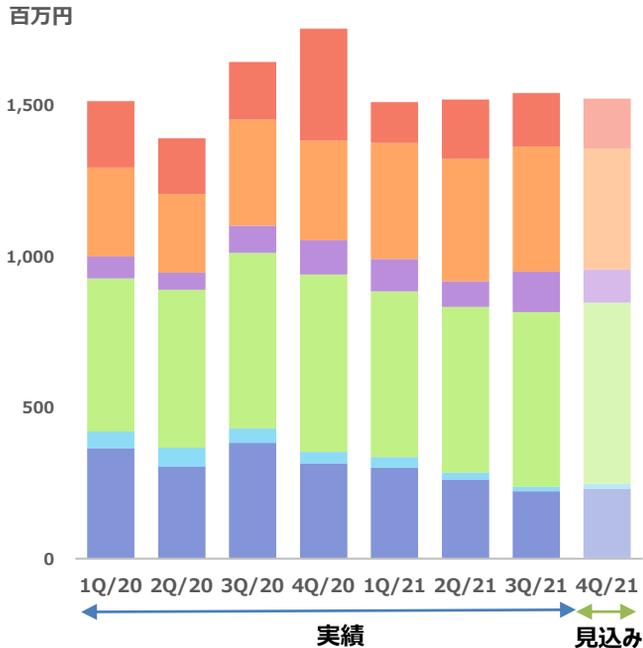
2022年3月期 業績見通し

単位：百万円	2022/3					2021/3
	通期計画	1 H実績	2 H計画	前期比		実績
				金額	増減率	
売上高	6,000	3,029	2,971	△ 306	△4.9%	6,306
営業利益	△ 250	△ 31	△ 219	△ 161	-	△ 89
営業利益率	△ 4.2%	△ 1.0%	△ 7.4%	-	-	△ 1.4%
経常利益	△ 210	0	△ 210	△ 193	-	△ 17
親会社株主に帰属する 当期純利益(円)	△ 224	△ 5	△ 219	477	-	△ 701

加工高	5,000	2,550	2,450	△ 155	△3.0%	5,155
研究開発費	350	146	204	76	27.7%	274
設備投資額	1,200	503	697	321	36.5%	879
減価償却費	291	69	222	155	113.9%	136

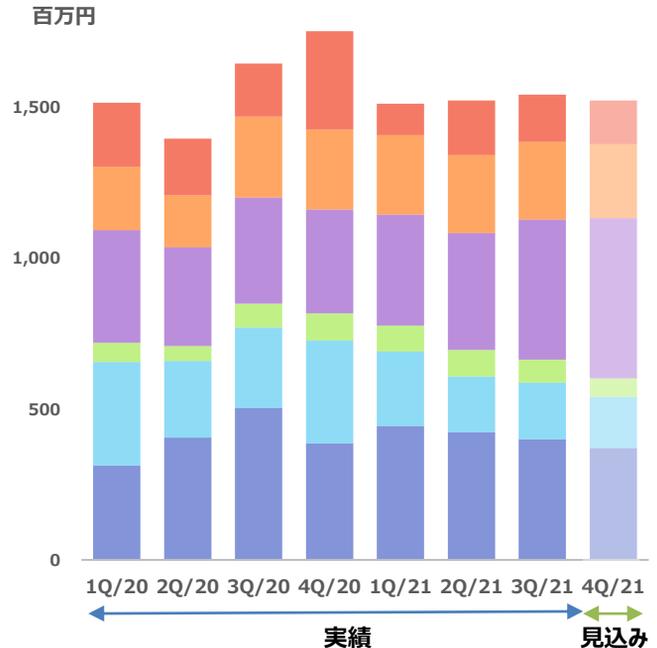
四半期売上実績

最終製品別売上高推移



- スマートフォン
- タブレット・PC
- 自動車
- ゲーム・DSC他
- その他機器・部品
- その他

品目別売上高推移



- 液晶パネル
- タッチパネル
- その他ディスプレイ
- モビリティ
- 半導体・電子部品
- その他

損益の特殊要因

特別損失

	用途	場所	種類	減損損失 (百万円)
減損損失	製造設備	吉奥馬科技（無錫）有限公司 本社工場（中国江蘇省無錫市）	機械装置及び建設仮勘定	50
	合計			50

重点施策について

① 成膜加工QCDT（quality, cost, delivery, technology）の更なる強化

当社グループの基幹事業である真空成膜業界における、有望市場の変遷やサプライチェーンの垂直統合及び地理的再編による競合環境の変化に対応すべく、成膜専門メーカーとしてのQCDT強化を図っております。

- モノづくり戦略の抜本的な見直しとして、最適な拠点での製造を実施するとともに、設備使用効率の改善、自動化及びIT化による工程作業効率の改善、また、品質ロスコストの低減により、生産性の向上に取り組んでおります。
- 受託加工での需給変動に柔軟に対応すべく、顧客との先行情報共有や自社内プロセス短縮に加えて、調達や加工工程の複線化にも取り組んでおります。
- 商材カテゴリー毎に細分化した、製造・販売・技術横断的なタスクフォースを展開して、商材単位での競争力向上を進めております。

② 特定市場への過度な依存からの脱皮

従来の当社主力製品が関連する中小型FPD市場では、事業の主軸でありましたスマートフォン市場での液晶パネル関連需要の減速と有機ELパネルへの移行が加速しているため、特定市場への依存偏重から脱皮し成長分野への事業領域拡張を図っております。

- 成長性を見込む対象市場を、ディスプレイ・モビリティ・半導体及び電子部品関連の3分野に設定して分野別対応策や体制再編を段階的に実行することにより、事業及び商材ポートフォリオの転換に取り組んでおります。
- 研究開発部門では先行技術の開発に、製造技術部門では既存技術の応用や製法の多角化に各々注力すると同時に、相互連携を強化して成長を支えるコア技術の創出に取り組んでおります。
- これまでの部分工程受託で培った、技術や製造ノウハウ・装置調整や工程及び設備設計といった「匠」のコンサルティングも事業商材と位置付け、協業も積極的に活用することで新たなビジネスモデルの拡張に取り組んでおります。

③ 経営体質の更なる強化

上述のような、事業力強化への直接的な取り組みと同時に、経営体質の改善を図っております。

- 中期視点での削減目標を指標とした販売管理費のムダ取りと投資回収の可視化により、経営効果ある支出管理の徹底に取り組んでおります。
- 「2025年の崖」リスクの回避に向け、基幹ITシステムの置換と併せて各種データのデジタル化及び共有活用とBI化を進めると共に、関連業務自体の見直しにも取り組んでおります。
- また、前述の全ての対策効果を最大化するために、現場での意識改革を主眼とする全従業員参加型の企業風土改革プロジェクトを並行して推進しております。